

## Letters to the editor

日本消化器外科学会雑誌 第32巻10号 2314頁 2319頁 1999年掲載

石原 省ほか論文

「早期胃癌肝転移例における  $\alpha$ -fetoprotein 産生能の臨床病理学的、  
免疫組織学的検討」について埼玉医科大学総合医療センター病理部  
糸山 進次

石原論文を興味深く読ませていただきましたが、その中で「癌細胞の核が染色されたものを陽性と判定...」とあるのは、核ではなくて細胞質の誤りではないでしょうか。

ついながら今日病理組織学的検査の中で免疫組織化学の重要性は増大する一方ですが、それにつれていくつかの問題点もあるということを一言述べておきたいと思います。

第1に抗体の数が激増しておりますのでその抗体は細胞の中のどのような物質を抗原として認識しているのかよく知っておく必要があります。第2に染色技術の改良への努力の成果も著しく、さまざまな抗原賦活化法や増感法などが開発されてきた結果、従来凍結標本でしか染まらないといわれたものがパラフィン包埋標本でも染まるようになったものも少なくありません。今日の問題はこのような技術的な面がなお発展途上であり、流動的で、陰性とされた結果が必ずしも絶対とはいいきれないこと、どの施設でやっても同じとはいえないことです。結果の解釈の上でも偽陽性や偽陰性の問題がしばしば生じています。従って重要な染色については陽性コントロール・陰性コントロールを必ずおくとともに、背景に余分な染色がないこと、また染色部位が細胞表面、細胞質、核のうちのどの範囲なのか鮮明であることなどが信頼できるかどうかのキーポイントだと思います。

癌研究会附属病院外科  
石原 省

このたび拙論文「早期胃癌肝転移例における  $\alpha$ -fetoprotein 産生能の臨床病理学的, 免疫組織学的検討 (本誌 32巻第10号) に対してご質問をいただきありがとうございます。

ご質問にあります本論文の2 対象と方法における「癌細胞の核が染色されたものを陽性と判定し (p2314, 19 行目) について, 染色されたのは核ではなく細胞質ではないかとのご質問に対してお答え申し上げます。

先生ご指摘のごとく, 陽性と判定したのは癌細胞の細胞質が染色された症例でした。文献的にも石倉らは  $\alpha$ -fetoprotein (以下 AFP) 産生腫瘍細胞の核膜, 粗面小胞体および胞体内の PAS 陽性ジアスターゼ抵抗性組織球 (HG) 中の蛋白様内容に AFP が証明されたと述べています<sup>1)</sup>, また加藤らは腫瘍細胞内の AFP 局在を 4 つの型に分類していますが, AFP はいずれも胞体内に局在しています<sup>2)</sup>。したがってご指摘のあった記載は不適切な表現であり, この誌面をお借りし, 「癌細胞の細胞質が染色されたものを陽性と判定し」に訂正させていただきます。今後は免疫組織学的染色における抗原抗体反応の理解およびその判定について十分に注意を払い, このようなことがないように発表したいと思います。

最後にこのような討論の場を与えていただいた糸山進次先生, 本誌編集委員会ならびに編集委員長佐治重豊先生に深謝いたします。

#### 文 献

- 1) 石倉 浩, 水野一也, 社本幹博ほか: 胃の肝様腺癌 疾患単位の提唱とその臨床病理学的特性. 胃と腸 22: 75-83, 1987
  - 2) 加藤 拓, 高橋久雄, 井田喜博ほか: AFP 産生胃癌の免疫細胞組織化学的研究. 臨病理 41: 1024-1030, 1993
-